

ゲーム、携帯・スマホ、どこまで許す!?

「いつまでゲームやってるの!?」とゲームを取り上げる時もあれば、「静かにして頂戴、おとなしくゲームでもしてなさい。」と与える時もある…功罪があるようです。

ゲームに熱中すると、友達との関わりが疎遠になるのでは…、想像力や感受性が乏しくなるのでは…と案じる人もいます。インターネットで知り合った人との関わりで犯罪に巻き込まれたり、ネット依存に陥る方々が問題になったり、様々な社会問題も引き起こされています。

しかし、ゲームが親子の交流の道具となって、良好な家族関係を築くことに繋がる現状もあります。昔の親子のキャッチボールが、ゲームでの対戦に変わっているのです。

勉強の役に立つこともあります。スマホは辞典・辞書代わりになります。インターネットでの家庭教師も存在します。就職活動に際しては、インターネットを使いこなせないと申し込みすら出来ない状況です。

革新的なモノの出現に不安や心配は付きものです。テレビの登場、漫画の隆盛、そしてゲームの出現にネットワーク世界の広がり…まだまだ他にもあるでしょう。これまでにないモノが現れた時は、本能的に身を守ろうとする注意力が働きます。

子育てにおいて多くの場合は、親が経験則から判断し未然に危機を回避します。しかし、親が知らない新しいモノに対してはそれが出来ません。危機回避が不十分で、前述したような事件や問題も起きていています。

しかし、それはゲームやインターネットを介したネットワーク等が本当の原因なのでしょうか。

ゲームに毎日10時間以上熱中する…携帯やスマホを手放すことが不安で眠れない…通信料が10万円もかかった…親はこんな子供の状況を目の前にして、なぜ取り上げないのでしょう。そこには、取り上げられない不自然な親子の関係や家庭環境があるのではないかでしょうか。だから、子どもは家庭より外に逃げ場を求め、インターネットで知り合った人に心身的な被害を受けたりするのです。

「我慢する」「自己制御する」「フラストレーション耐性を作る」これらのこととは社会生活を営む上でとても重要です。誰でも楽しいモノにはのめり込みます。精神的に自立するまでは、親がしっかりと手綱を握り、時間制限を設けるなどして「行き過ぎ」を止めなければなりません。家庭での様子だけでなく学校での態度、町での行動を、それこそ大人のネットワーク(人の繋がり)を通して見守る姿勢が大切なのではないでしょうか。

子どもたちが彼らのネットワークを通して危機に陥らないように、大人たちは学校・家庭・地域のネットワークを通して「見守り育てる」という絆をもっと強くしていきましょう。